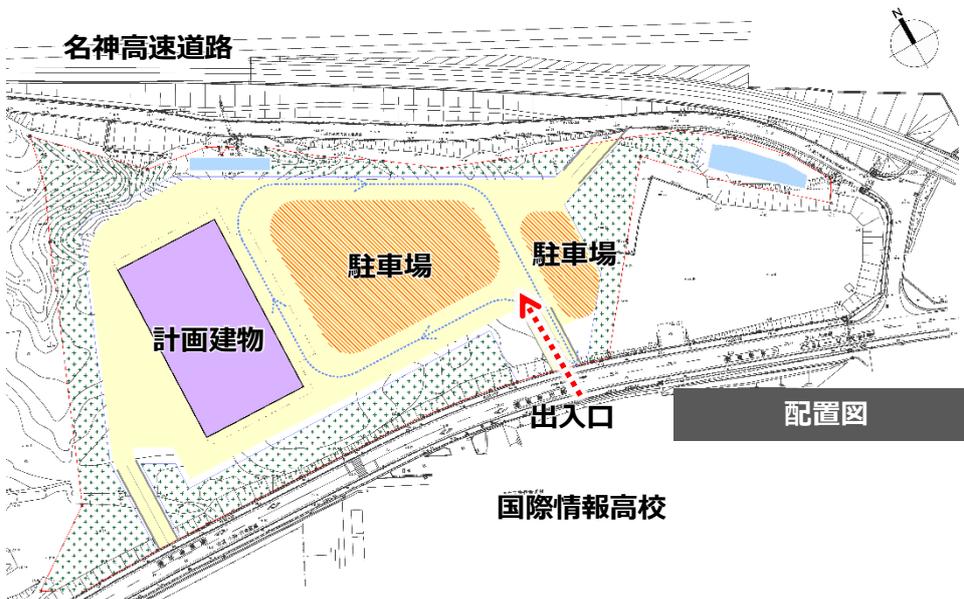
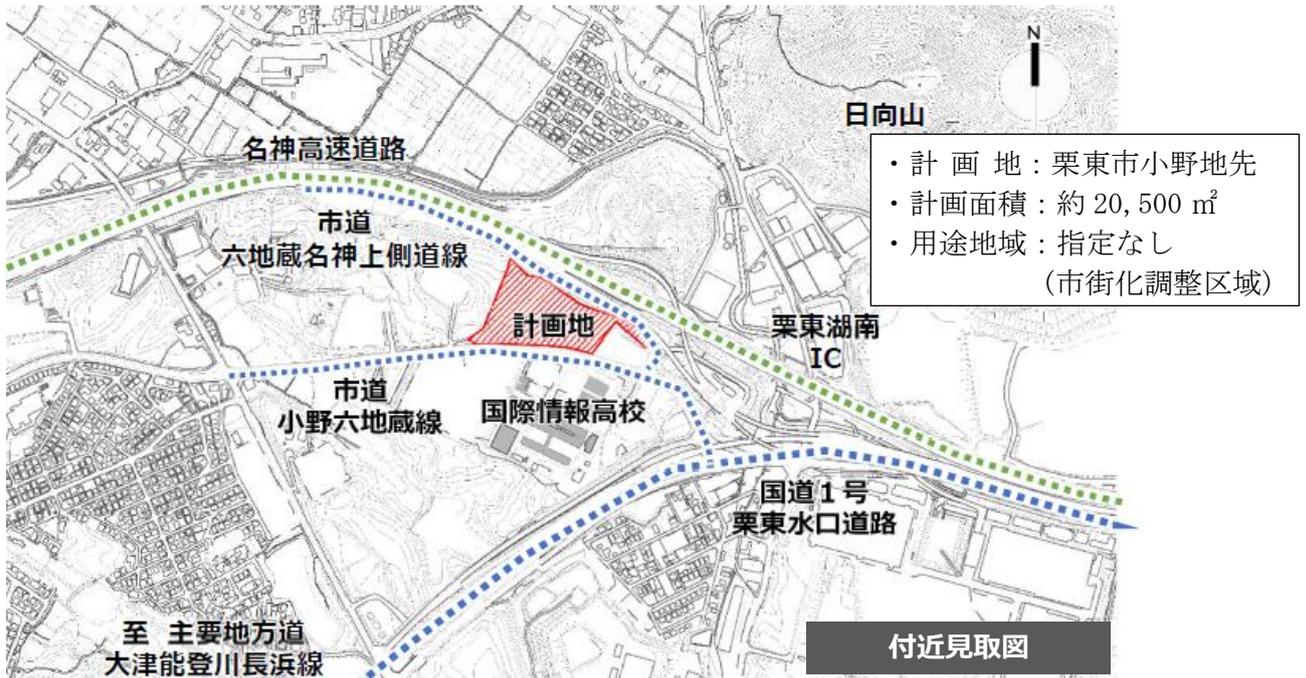


草津栗東行政事務組合 都市計画審議会説明資料

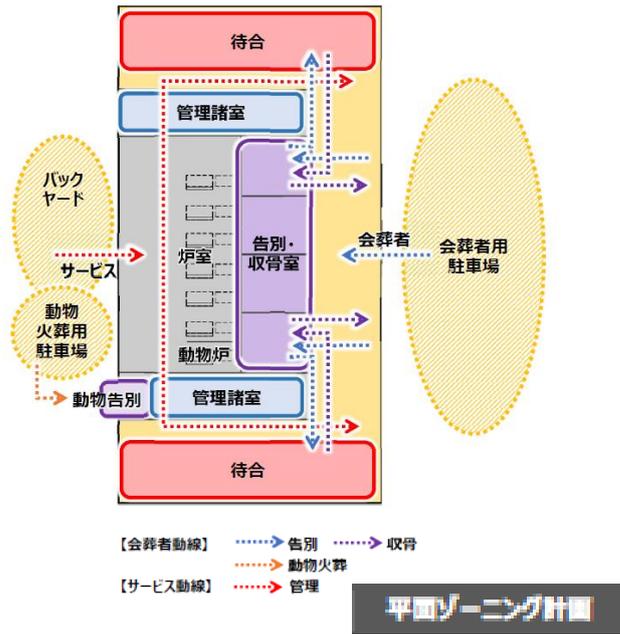
(仮称) 草津栗東火葬場基本計画概要について

(1) 計画概要

計画地は、南側を市道小野六地藏線、北側を市道六地藏名神上側道線と接しており、敷地南側には、国際情報高校が存在する。また、令和7年に開通予定である主要地方道大津能登川長浜線と国道1号栗東水口道路、市道小野六地藏線がつながるため、新火葬場の主なアクセス経路として予定している。



【必要諸室・規模】



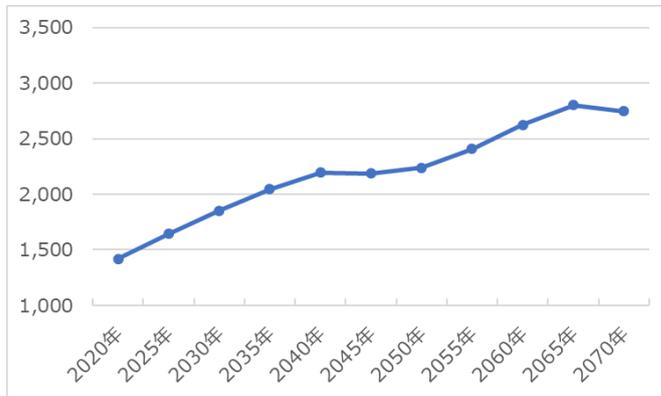
部門	室名
火葬部門	エントランスホール 告别・収骨室 (一部簡易葬儀対応)
	炉室
	炉機械室
	監視室
	霊安室
待合部門	待合ロビー
	待合室
	キッズコーナー・授乳室
	便所・給湯室
	葬祭業者等控室
管理部門	事務室
	会議室
延床面積	2,600 m ² 程度



※基本計画で示す新火葬場の計画のイメージは、あくまで現段階におけるものであり、今後、民間事業者から提案を受けて決定していく。

(2) 将来火葬需要予測と必要火葬炉数

新火葬場の火葬需要については2021年は約1,490件だったが、ピークを迎える2065年には約2,800件に達すると予測される。



火葬需要予測をもとに、新火葬場の必要炉数を算定する。計算に用いる火葬炉の回転数は、近年の火葬炉の能力向上を踏まえ、予測されるピーク時の2065年の火葬件数に対応できる3回転と設定した。火葬炉数は6基(5基+予備炉1基)となり、予備炉を含まない場合でも1日15件の火葬が可能となる。

理論的必要炉数

$$= \text{年間火葬需要量} \div \text{稼働日数} \times \text{火葬集中係数} \div 1 \text{基} \text{1日あたり平均火葬数}$$

ピーク時 (2065年)	
年間火葬需要量	2,802
想定日最多件数	14.1
理論的必要炉数	5基
予備炉を含めた炉数	6基

(3) 事業スケジュール

PFI 事業者選定からの事業スケジュールを以下に示す。

年度	スケジュール
令和 5～7 年度	事業者選定
令和 7・8 年度	造成工事 基本設計・実施設計
令和 8・9 年度	建設工事
令和 10 年 3 月	供用開始